

平成21年 3月31日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2007 ～ 2008
 課題番号：19720211
 研究課題名 (和文) 中世仏舎利信仰の考古学的研究—水晶製五輪塔形舎利容器を題材として
 研究課題名 (英文) An archeological study of the Middle Ages Buddha's ashes faith
 研究代表者
 山田隆文 (YAMADA TAKAFUMI)
 奈良県立橿原考古学研究所・附属博物館・主任学芸員
 研究者番号：30301005

研究成果の概要：

本研究は2002年度に王寺町教育委員会と共同で実施した達磨寺の発掘調査で仏舎利埋納遺構が検出され、舎利を奉籠した水晶製五輪塔形舎利容器が出土したことを契機としている。中世の仏舎利信仰については仏教史学の立場からの研究が、水晶製五輪塔形舎利容器についても美術史の立場からの研究がおこなわれているものの、宗派を越えた比較研究や、舎利埋納の遺構や遺物に対する考古学的研究はあまり進んでいないのが現状である。本研究では特に、水晶製五輪塔形舎利容器に注目し、集成をおこない、型式学的検討をおこなう。さらに、舎利容器が納置された寺院、遺跡、仏像について歴史的背景などについても調査をおこない、仏舎利の納置について年代による変化があるか、宗派による差異がないか検討する。

水晶製五輪塔形舎利容器は中世のものに限定しても全国で70点以上存在しているが、そのうち時期的、地域的、型式的に特に重要と考えるものを抽出し、実測、写真撮影および熟覧調査を実施した。これまでに分布の集中する奈良、京都、神奈川のほか、宮城、石川、広島、山口、愛媛などで、計33点の水晶製五輪塔形舎利容器の調査をおこなった。また、マイクロスコブによる拡大観察により、舎利容器の製作に関わる研磨痕跡を確認し、製作技法の推定や、技法の共通性、差違を検討した。その結果、舎利容器の平面形には4種類、舎利容器の蓋と身の組み合わせに3種類以上あることがあきらかとなったが、これらの型式がある程度の傾向は見られるものの宗派を越えていること。従来の編年観では異なるべき時期のものが一括資料として存在していることなど、今後の検討課題が明らかとなった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	0	1,000,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,000,000	300,000	2,300,000

研究分野：考古学

科研費の分科・細目：

キーワード：中世仏舎利信仰、五輪塔形舎利容器、宗派、編年研究、水晶、製作技法

1. 研究開始当初の背景

日本仏教史上、中世の南都奈良を中心とした旧仏教の戒律復興にともなう釈迦如来信仰の隆盛と、仏舎利信仰の流行は特筆すべき事象のひとつといえる。この仏舎利信仰にともなって仏舎利を奉籠する容器として創出されたもののひとつに水晶製の五輪塔形舎利容器がある。水晶製五輪塔形舎利容器は文字通り水晶を原材料として五輪塔形に彫刻した舎利容器で、内部に仏舎利を納入できるようになっている。仏殿内での奉安をはじめとして、仏塔への納入、仏像や頂相彫刻の胎内への納入、僧侶や有力壇越の念持、そして納骨塔や墓地への副納に使用された。現在まで知られている類例は、筆者の調べでは近世の類例を除くと、東は宮城県から西は大分県までおよそ 70 点存在し、その半数程度が奈良県と京都府に分布し、鎌倉を中心とした関東地方にも複数分布している。

中世仏舎利信仰について仏教史的には研究はおこなわれているものの、宗派を越えた比較研究や水晶製五輪塔形舎利容器の型式学的編年研究はあまり進んでいないのが現状である。

2. 研究の目的

本研究では、水晶製五輪塔形舎利容器の型式が年代による変化だけではなく、宗派による差異などが存在するのかを明らかにする。

3. 研究の方法

まず中世の水晶製五輪塔形舎利容器の全国の分布状況を調査し、収集した資料や情報をもとに基礎的なデータベースを作成する。次にそれに基づいて各所蔵機関（個人）に赴き、実物観察と実測、写真撮影などの熟覧調査をおこない、水晶製五輪塔形舎利容器の編年を試みる。

4. 研究成果

先述したとおり、水晶製五輪塔形舎利容器は中世のものに限定しても全国で 70 点以上存在しているが、そのうち時期的、地域的、型式的に特に重要と考えるものを抽出し、実測、写真撮影および熟覧調査を実施した。これまでに分布の集中する奈良、京都、神奈川のほか、宮城、石川、広島、山口、愛媛などで、計 33 点の水晶製五輪塔形舎利容器の調査をおこなった。また、マイクロスコープによる拡大観察により、舎利容器の製作に関わる研磨痕跡を確認し、製作技法の推定や、技法の共通性、差違を検討した。その結果、舎利容器の平面形には 4 種類、舎利容器の蓋と

身の組み合わせに 3 種類以上あることがあきらかとなったが、これらの型式がある程度の傾向は見られるものの宗派を越えていること。従来の編年観では異なるべき時期のものが一括資料として存在していることなど、今後の検討課題が明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田隆文 (YAMADA TAKAFUMI)

奈良県立橿原考古学研究所・附属博物館・主任学芸員

研究者番号: 30301005

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：

様式 C-19 (記入例)

科学研究費補助金研究成果報告書